

# 2017-18年度 RI2530地区 県北第一分区・第二分区合同 新会員オリエンテーション プログラム

2018年3月24日(土) 15:00～ ホテル辰巳屋

ホスト:福島ロータリークラブ      コホスト:川俣ロータリークラブ

## 第1部

14:30	受付開始	司会:ホストクラブ幹事	相良 元章
15:00	開会点鐘 国歌斉唱 ロータリーソング「奉仕の理想」 4つのテスト唱和 会長挨拶	ホストクラブ会長 ソングリーダー 福島 RC ホストクラブ 職業奉仕委員長 ホストクラブ会長 コホストクラブ会長 ホストクラブ幹事	森岡 幸江 内池 浩 森岡 幸江 三浦 英雄 相良 元章
	講師及び参加者・参加クラブの紹介 ガバナー補佐挨拶	ホストクラブ幹事 2017-18年度 県北第一分区 ガバナー補佐	相良 元章 渡辺 浩子

15:30 講義 ②      講師 2018-19年度 県北第一分区 ガバナー補佐 古俣 猛 (福島 RC)

16:00 休憩

16:10 講義 ①      講師 2018-19年度 県北第二分区 ガバナー補佐 渡邊 武 (梁川 RC)

16:40 質疑応答

16:50 新会員より  
第一分区福島 RC・福島中央 RC  
第二分区福島北 RC・保原 RC      各1名計4名

17:05 講師への記念品贈呈      2017-218年度 県北第二分区 ガバナー補佐 佐藤 吉弘

17:10 閉会点鐘      ホストクラブ会長 森岡 幸江

諸事お知らせ

## 第2部

17:20 懇親会司会      コホストクラブ幹事 斎藤 昌克  
開会の言葉      コホストクラブ会長エレクト 氏家 秀幸  
ガバナー補佐挨拶      2017-18年度 県北第二分区 ガバナー補佐 佐藤 吉弘

乾杯      パストガバナー 大橋 廣治

懇親

手に手つないで      ソングリーダー 福島 RC・川俣 RC

18:50 閉会の言葉      コホストクラブ副会長 池田 義寛

## ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。  
具体的には、次の各項を奨励することである：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリー各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

## 四つのテスト THE 4-WAY TEST

言行はこれに照らしてから	Of the things we think,say or do
1. 真実か どうか	1. Is it the TRUTH?
2. みんなに公平か	2. Is it FAIR to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか	3. Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
4. みんなのためになるか どうか	4. Will it be BENEFICIAL to allconcerned?

## ロータリーのモットー

“Service Above Self” (超我の奉仕)

“One Profits Most Who Serve Best” (最もよく奉仕する者、最も多く報いられる)

アーサー・フレデリック・シェルドンは、ビジネスはすべて社会に尽くす手段でなければならないと信じ、1910年シカゴでの最初の大会で“*He Profits Most Who Serves His Fellows Best*” (最もよく仲間に奉仕する者は、最もよく報いられる) と主張。

翌年ポートランドで開催された第2回ロータリー大会でミネアポリスのフランク・コリンズもまた、他人のために尽くす意義と重要性を説き、RCは“*Service,Not self*” (無私の奉仕) を根本精神として結成されなければならないと強調した。

この2つの言葉が近年“*One Profits Most Who Serve Best*” (最もよく奉仕する者、最も多く報いられる) [He=男性という表現は女性のロータリアンが増えているため適切ではないためOneに変更] および“*Service Above Self*” (超我の奉仕) とそれぞれ修正され、この2つが正式にロータリーのモットーとして1950年に採用された。

その後、1989年の規定審議会で“*Service Above Self*”がロータリーの第1標語となった。

## ロータリーの誕生とその成長

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳の欠如が目につくようになっていました。

ちょうどそのころ、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人と語り、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。ロータリーとは集会を各自の事務所持ち回りで順番に開くことから名付けられたものです。

こうして1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。

それからは、志を同じくするクラブが、つぎつぎ各地に生まれて、国境を越え、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数35,399、会員総数1,207,913人(2016年7月1日現在)に達しています。

そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

## 日本のロータリー

わが国最初のロータリークラブは1920年(大正9年)10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、ポール・P・ハリスの片腕としてロータリー組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

その後、日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年3月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたのが国際ロータリーの第3代事務総長ジョージ・ミーンスでした。

その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。現在、日本国内でのクラブ数は2,262、会員数89,871人(2017年11月末現在)となっております。